

# チリ共和国での都市救急救助研修における技術支援

## 参事官

### 1 はじめに

チリを拠点とした中南米及びカリブ諸国を対象とした都市救急救助研修は、昨年7月、安倍総理大臣がチリ訪問時に国際協力機構（JICA）とチリ共和国国際協力庁（AGCI）との間で、チリを拠点とした防災人材育成拠点化支援に関する協力覚書が締結され、本年3月「中南米防災人材育成拠点化支援プロジェクト」としての基本合意を経て、チリと日本が協同して中南米地域全体の防災の主流化を推進するため、防災に関する専門性の高い人材の育成や行政官の能力向上等を図るものであり、公共インフラの技術力強化や建築物の地震リスク管理など様々な防災分野の一つとして、救急救助に携わる行政官を対象に実施された研修です。なお、このプロジェクト（別名「KIZUNAプロジェクト」）は5年間の計画となっており、全体で約2,000名、そのうち都市型搜索救助員として180名の能力向上を目標としています。

この研修に総務省消防庁、東京消防庁からそれぞれ1名が派遣され、日本の救助体制、各種災害から得られた教訓や対策、高度救助資機材を活用した搜索救助手法などを紹介するとともに、研修内容の高度化や改善に向けた助言を行うため参加しましたので紹介します。

### 2 チリの消防体制

チリの消防体制は、国家消防庁（Junta Nacional de Bomberos）の下に消防団（Cuerpo de Bomberos）が全国に313存在し、その管轄下に1,112の消防署（Compania de Bomberos）があり、消防活動に従事する消防士約4万人は全てボランティアとなっています。研修の実施主体であるチリ国家消防アカデミー（ANB：Academia Nacional de Bomberos）は、消防士や民間企業の自衛消防隊等の教育機関として国家消防庁の直轄組織として設立され、中南米地域内でも充実したキャンパスと宿泊施設を備えた研修センターを運営しています。

ANB研修センターでは、火災、救助、NBC災害など15のシミュレーション訓練が行える施設を備え、基礎

教育のほか化学薬品の取扱いや都市型搜索救助（USAR：Urban Search and Rescue）など専門分野の教育も行われており、インストラクター有資格者のチリ消防士が指導にあたっています。



ANB研修センター



自衛消防隊訓練

### 3 都市救急救助研修

本研修は、10月19日～30日の2週間、中南米及びカリブ地域12カ国から応募のあった約100名のうち、救急救助の経験年数等を踏まえて選考された34名が参加したもので、ANBが企画したUSAR技術を中心とする研修となっており、瓦礫下等に閉じ込められた要救助者の物理的搜索や搜索犬等を利用した搜索、ショアリングによる構造物の安定化やクリビングによる重量物の安定化、アメリカ体系によるロープレスキュー、土砂災害や溝での活動で崩落処置を施し救助するトレンチレス

キューなど、米国での技術やシステムを取り入れた訓練内容となっています。また、実地訓練のほか緊急時の総合指揮システムとして、人的・物的資源を効率的かつ効果的に管理するための現場指揮システム（ICS：Incident Command System）や国際標識とマーキング、USARチームのロジ管理に関する理論の実習なども採り入れられています。

チリでは、今年9月にもマグニチュード8.3の地震が発生していますが、日本と同様に地震や津波、火山噴火、大規模な土砂災害など自然災害の多発国であり、これまでの地震や津波被害等の教訓から、国を挙げてインフラ整備や早期警報システム等の構築が進められています。消防が行う救急救助分野においてもUSAR技術について米国テキサス州にあるTEEX（Texas Engineering Extension Service）での都市型捜索救助国際コース等に参加し、国内のUSARチームの育成・強化を図っています。また、国連参加の政府間ネットワークである国際捜索救助諮問グループ（INSARAG：International Search And Rescue Advisory Group）にも加盟し、国際的な格付けは有していませんが、国内での認証をINSARAGのガイドラインに基づき実施し、6チームをミディウム、8チームをライトに指定するなど、今後の国際的な災害派遣も視野に入れた組織強化に力を注いで

おり、こうした中南米地域における先進的な取組を反映した内容の研修となっています。

研修に参加した中南米及びカリブ諸国の消防士は、職業消防士、ボランティア消防士など様々であり女性消防士3名も含まれていました。カリブ諸国ではハリケーンによる洪水や土砂災害が多発しており、チリと自然災害の種別は異なりますがUSAR技術に興味を示し訓練参加していました。

## 4 技術支援まとめ

今回、この研修のほかチリ消防士を対象としたセミナーも開催され、日本の救助体制や国際救助活動の経験について紹介する機会を得ました。セミナー参加者からは、救助チームをいち早く派遣するための体制や捜索救助活動終了の判断、医療関係者との連携など様々な質問があり、日本の救助活動体制への関心の高さとボランティアとは思えないチリ消防士の前向きな姿勢を感じました。また、中南米及びカリブ諸国から研修に参加した消防士についても救助体制の成り立ちや救助技術、資機材に違いがある中で、高度な救助資機材の導入は困難であっても、過去の救助事案の経験から検証等に基づき築き上げられた日本の救助技術や形成プロセスに高い関心を寄せていました。研修全般を通してUSAR技術がメインとなっていましたが、安全管理面で不安を感じる場面もあり、今後は文化や考え方に違いはあるもののUSAR技術と併せて常に安全への高い意識、安全文化を融合したよりクオリティーの高い研修の実施が期待されます。



クリビング&リフティング



ショアリング



チリ消防士セミナー

### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部 参事官付 新村  
TEL: 03-5253-7507